徳川美術館 プレスリリース
２０２３年６月

徳川美術館
THE TOKUGAWA ART MUSEUM

展覧会概要

慶長８年（1603）、征夷大将軍となった徳川家康は幕府を成立させ、約 250 年も続く泰平の世の基礎を築き上げました。家康の生涯の大半は、室町時代から続く戦国の世にあり、時に命の危険にさらされながらも困難を乗り越え、戦乱に終止符を打ちました。

蓬左文庫展示室では、史料を中心に家康がとった選択に注目しながら、その波乱の生涯を辿ります。本館展示室では、家康歿後に尾張徳川家へ贈られた駿府御分物（家康の遺産）を中心に、家康の人となりから政治と学問・茶や香道といった芸能などに焦点を当て、家康像を紐解いていきます。

展覧会基本情報

◆展覧会名　夏季特別展　徳川家康－天下人への歩み－
◆会　　場　名古屋市蓬左文庫展示室・徳川美術館 本館展示室
◆会　　期　2023 年 7 月 23 日（日）～ 9 月 18 日（月・祝）※会期中展示替あり
◆開館時間　午前 10 時～午後 5 時（入館は午後 4 時 30 分まで）
◆休 館 日　月曜日　※但し、8 月 14 日（月）は臨時開館、9 月 18 日（月・祝）は開館、翌 9 月 19 日（火）は休館
◆観 覧 料　一般 1,600 円　高・大生 800 円　小・中生 500 円
※ 20 名様以上の団体は一般 1,400 円、高大生 700 円、小中生 400 円　※毎週土曜日は高校生以下無料
◆主　　催　徳川美術館・名古屋市蓬左文庫・読売新聞社
◆後　　援　NHK 名古屋放送局
◆協　　力　名古屋市交通局

プレス内覧会

2023 年 7 月 22 日（土）午後 1 時 30 分～ 3 時　**（13 時受付開始）**
会場：徳川美術館　講堂
内容：展覧会担当学芸員による概要解説の後、自由取材

第一部　天下人への歩み

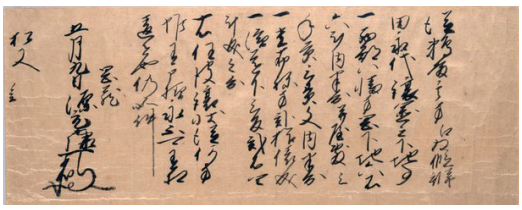
慶長８年（1603）、徳川家康（1542 ～ 1616）は、征夷大将軍に任じられ、約 250 年も続く泰平の世の基礎を築き上げた。しかし、その生涯の大半は、室町時代から続く戦国の世にあり、家康もまた幼少期に父と死別し、生地を離れた駿府の地で養育され、戦乱に巻き込まれていった。まさに波乱に満ちた生涯を歩んだ。

第一部では、歴史史料を中心に家康が天下人になったその長い道のりを、家康の決断に焦点を当てながら辿っていく。

【画像１】
石合戦図 (二幅対のうち右幅部分)
森村宜稲筆
明治～昭和時代 19-20 世紀
徳川家寄贈

富士の麓の川で、子供たちが石合戦を行い、それを家臣に背負われた武家の子供が見物している。石合戦とは印地打とも呼ばれ、二手に分かれた子供たちが川を挟んで石を投げ合う合戦の真似事である。

実は、背負われた子供が竹千代（家康）で、石合戦をみてその勝敗を予見し的中させたという幼少期からの武将としての才を物語る逸話が描かれている。



【画像２】
松平元康（家康）所領安堵状　松又（松平又八郎伊忠）宛
(永禄６年）５月９日
深溝松平家伝来　室町時代　永禄６年（1563）

永禄６年５月９日に書かれた安堵状。「元康」と署名された数少ない史料のひとつで、この書状を出した２ヶ月後の７月６日に元康は「家康」へと改名。今川義元から与えられた「元」の字を捨てることは今川家との決別を意味した。

【画像３】
長篠合戦図屏風
江戸時代 19 世紀
7 月 23 日～ 8 月 20 日公開

天正３年（1575）４月、１万５千の兵を率いる武田勝頼（1546 ～ 82）は離反した奥平信昌の守る長篠城（愛知県新城市）を取り囲んだ。

家康は信長に援軍を要請し、信長も５月 13 日に岐阜を発ち、長篠城の手前４キロ、設楽原に３万の兵で布陣した。陣の前には武田の騎馬隊を防ぐための柵を作り、鉄炮足軽を配した。５月 20 日夜、家康は家臣・酒井忠次を大将に、４千人の軍勢を鳶ケ巣山に向かわせ、翌 21 日朝、武田勢を攻めた。背後から攻め込まれた武田勢は、設楽原に出て騎馬隊で襲いかかるが、山県昌景らが鉄炮に撃たれた。午前５時頃より午後２時頃まで続いた戦いで、武田勢はしだいに少なくなり退却を余儀なくされた。

【画像４】
左：唐物茶壺　銘 金花　大名物　南宋～元時代 13-14 世紀
六角家・織田信長・豊臣秀吉・松井有閑・徳川家康・徳川頼宣（紀伊家初代）所用
西条松平家伝来ほか

右：重要文化財　唐物茶壺　銘 松花　大名物　　南宋～元時代 13-14 世紀
足利義政・伝斯波家・珠光・誉田屋宗宅・北向道陳・道味・織田信長・信忠・
堀秀政・豊臣秀吉・秀次・徳川家康所用

天正４年（1576）、信長は近江国安土山（滋賀県近江八幡市）に新たに居城を建てた。京に近く、琵琶湖の水運による利便性も高いことなどから、この安土が選ばれた。

信長が名だたる名物茶器を蒐集していたことは有名で、『信長公記』の安土城天守落成（完成）祝の項には、「せうくわ（松花）の壺　きんくわ（金花）の壺とて隠れなき名物参り　ご機嫌斜めならず」と、これらの茶壺が祝賀の品として贈られ、信長を喜ばせた様子が記されている。天正 10 年、武田家を滅ぼした信長は、功労者である家康をこの安土城で饗応した。

【画像 5】
重要文化財　刀　無銘 一文字　名物 南泉一文字
鎌倉時代 13 世紀
足利将軍家・豊臣秀吉・豊臣秀頼・徳川家康所持

豊臣秀頼が慶長 16 年（1611）３月 28 日、京都・二条城で家康と会見した折に、家康に贈った刀である。二条城会見は、秀頼が家康の下へ出向いた形式のため、豊臣家と徳川家の力関係が逆転した出来事として特筆される。その歴史的瞬間に立ち会った名刀といえよう。

第二部　ゆかりの品から紐解く徳川家康

家康は将軍家の血統保持と補佐を目的に、9 男義直（尾張徳川家）・10 男頼宣（紀伊徳川家、当初は駿河）・11 男頼房（水戸徳川家）を初代とする分家を創始した。いわゆる「御三家」である。

御三家には、家康が歿したあと、その遺産である駿府御分物が分与された。この遺産の他、家康の生前から譲られた品、後世に入手した家康の所用品など、多くの家康ゆかりの品が御三家で大切に保管されていた。現在、徳川美術館には家康に関わる品が約 300 点、収蔵されている。

第二部では、これら家康ゆかりの品から、家康の人となり、政治と学問・芸能など様々な視点で家康像を掘り下げていく。

【画像 6】
花色日の丸威胴丸具足 (部分)
桃山～江戸時代　16-17 世紀
徳川家康着用 (駿府御分物)

鉄片を黒漆で塗り固めた小札を花色の糸で威しながら、胴の中央と左右の大袖に、紅糸で大きく日の丸を威した華やかな家康着用の具足である。このような華美な具足は、家康がイギリス国王などに贈った具足と共通するという。

この具足はかつて名古屋城小天守内に納められていたが、家康が朝廷から拝領を固辞したと伝わる桐紋が蒔絵で表されていることから、江戸時代中期以降は秀吉着用の具足と誤認されていた。

【画像 7】
徳川家康画像 (東照大権現像)(部分)
徳川義直（尾張家初代) 筆・同賛　　江戸時代 17 世紀
8 月 22 日～ 9 月 18 日公開

この家康の肖像は、実の息子・尾張徳川家初代義直が描いている。耳垂が大きく、ふくよかな面長で口は小さいなど、顔の特徴をよく捉えていると考えられており、表情は穏やかである。家康には子供たちに宛てた書状が多く遺されており、子供たちの病が快復して喜ぶ書状、習字に励むよう諭す内容など、どれも親心があふれている。この家康像には、息子に見せた家康の飾らない姿が描かれているのであろう。

【画像 8】
左：紫地葵紋付葵の葉文辻ケ花染羽織
桃山～江戸時代　16-17 世紀
徳川家康 (駿府御分物）・徳川吉通 (尾張家 4 代）着用
7 月 23 日～ 8 月 20 日公開

紫色の地に、三色の二葉葵の大柄な文様を散らした華やかな羽織である。縫い絞りによるおおらかな葵の葉の表現と、引きしまった葉柄の線にみられる繊細さなど、染色技巧を余すところなく駆使した、家康の辻ケ花染の衣服を代表作する一領である。

【画像 9】
薄水色麻地蟹文浴衣
江戸時代　17 世紀　　徳川家康着用 (駿府御分物)
7 月 23 日～ 8 月 20 日公開

大柄の蟹文を全面に散らした意匠の浴衣である。苧麻を用いた高級品で、当初はもう少し藍の色が濃く鮮明であったと思われる。家康着用の浴衣は、33 領が一括して現存し、そのうち文様もしくは葵紋がある浴衣は 8 領遺されている。

【画像 11】
徳川家康画像 (三方ヶ原戦役画像）(部分)
江戸時代　17 世紀　　聖聡院従姫（9 代宗睦世嗣・治行正室）所用
7 月 23 日～ 8 月 31 日公開

元亀 3 年（1572）に武田信玄に三方ヶ原で敗れた家康が、その敗戦を肝に銘ずるため、敗走時の姿を描かせたと伝えられるが、この伝承には史料的な根拠はない。ただし、尾張徳川家の蔵帳には「東照宮尊影」とあり、江戸時代から家康像として認識されていたことは確かである。目を見開いて歯を見せる忿怒の表情や武装姿から、家康を武神として祀る礼拝像であったと考えられる。

【画像 10】
真珠貝玉箱
東南アジア 16 世紀
徳川家康・
霊仙院千代姫（尾張家 2 代光友正室）所用

金銀の細線や長片を組み合わせて葡萄唐草文を透彫り風に表し、金の鳥・獣・虫をつけて装飾し、141 粒の天然真珠を散りばめた小箱である。家康の所用品であったが、三代将軍家光の長女で尾張徳川家へ輿入れした千代姫の手に渡っていた。

展覧会関連イベント

■記念講演会①「家康と天下」
講　師：藤井譲治氏（京都大学名誉教授）
日　時：2023 年 7 月 30 日 (日) 午後 1 時 30 分～ 3 時（午後 1 時開場）
会　場：徳川美術館講堂
定　員：80 名（事前申込制／先着順）
参加費：無料（入館料別途要）
受　付：徳川美術館公式ホームページにて 7 月 1 日（土）より開始

■記念講演会②「服飾から見る徳川家康」
講　師：福島雅子氏（学習院女子大学准教授）
日　時：2023 年 8 月 19 日 (土) 午後 1 時 30 分～ 3 時（午後 1 時開場）
会　場：徳川美術館講堂
定　員：80 名（事前申込制／先着順）
参加費：無料（入館料別途要）
受　付：徳川美術館公式ホームページにて 7 月 1 日（土）より開始

■土曜講座「家康の遺産」
講　師：学芸部マネージャー　薄田大輔
日　時：2023 年 8 月 26 日 (土）午後 1 時 30 分～ 3 時（午後 1 時開場）
会　場：徳川美術館講堂
定　員：80 名（事前申込制ですでに満席／当日空席がある場合のみ受講可）
参加費：800 円（入館料別途要）

■音声ガイド（ナビゲーター：俳優 松重 豊さん）
大河ドラマ「どうする家康」に石川数正役で出演の松重豊さんをナビゲーターに迎え、
展覧会の見どころをわかりやすく紹介します。
レンタル料：600 円（税込）

■夏休み子ども企画「徳川家康」
小・中学生を対象に「徳川家康－天下人への歩み－」展をわかりやすく紹介。
楽しく鑑賞するためのワークシートを配布し、ギャラリー・クイズを実施します。
日　時：2023 年 7 月 23 日（日）～ 9 月 3 日（日）
参加費：無料（入館料別途要　※毎週土曜日は高校生以下入館無料)

広報画像ならびに視聴者・読者プレゼント提供

夏季特別展「徳川家康－天下人への歩み－」を、ぜひ御社媒体にてご紹介ください。
画像を 1 点以上使用してご紹介いただいた場合、視聴者・読者プレゼントとして本展覧会の御招待チケット（非売品）を、1 媒体 5 組 10 名様にご提供いたします。

＜下記内容をメールまたは電話、ファックスにてお知せください　利用期間：～ 2023 年 9 月 18 日（月・祝）まで＞

希望画像番号 _____
使　用　媒　体 _____
放送日・発売日 _____
プレゼント提供　　希望する　・　希望しない
貴　　社　　名 _____
ご 担 当 者 様 _____
データ送付先アドレス _____
ご 連 絡 先 電 話 番 号 _____

[ご利用にあたっての注意事項]
- 画像のご利用は本展覧会の紹介用途のみに限ります。
- 部分アップのトリミングは可能ですが、色変更等の加工はご遠慮ください。
- 二次利用不可です。
- 画像には最低限「タイトル」と「所蔵」のクレジットを明記してください。
- 内容確認のための校正原稿をお送りください。
- ご掲載誌、DVD 等を 1 部「徳川美術館　管理部　広報宛」でお送りください。

徳川美術館
THE TOKUGAWA ART MUSEUM
〒 461-0023 名古屋市東区徳川町 1017
TEL：052-935-6262（10 時～ 17 時受付）
052-935-8222（営業時間外受付）
FAX：052-935-6261
担当：吉川　yuki@tokugawa.or.jp
竹内　d.takeuchi@tokugawa.or.jp